

△フスコデ配合錠 [内]

【重要度】★ 【一般製剤名】ジヒドロコデインリン酸塩、dl-メチルエフェドリン塩酸塩、クロルフェニラミンマレイン酸塩 Dihydrocodeine Phosphate, dl-Methylephedrine Hydrochloride, Chlorpheniramine Maleate 【分類】麻薬性鎮咳剤

【単位】△錠

【常用量】9錠/日

【用法】1日3回

【透析患者への投与方法】常用量 (5)

【保存期CKD患者への投与方法】常用量 (5)

【特徴】1錠中、ジヒドロコデインリン酸塩 3mg、dl-メチルエフェドリン塩酸塩 7mg、クロルフェニラミンマレイン酸塩 1.5mg含有

【主な副作用・毒性】無顆粒球症、眠気、消化器症状、排尿困難など

【F】ジヒドロコデイン21% (1)

【tmax】ジヒドロコデイン1.2hr (1)

【代謝】ジヒドロコデイン：肝で6-グルクロン酸抱合、N-脱メチル化、O-脱メチル化される (1) dl-メチルエフェドリン：N-脱メチル化によりエフェドリン、ノルエフェドリンに代謝 (1)

【排泄】ジヒドロコデイン：尿中回収率約90% (1) dl-メチルエフェドリン：未変化体として約70%が尿中に回収 (1) N-脱メチル化体のエフェドリン10~15%、ノルエフェドリン1.0~1.7% (酸性尿) (1) クロルフェニラミンマレイン：尿中回収率36%、糞便中へは0.2% [iv, 48hr まで] (1) 【CL/F】ジヒドロコデイン 500~600mL/min (1)

【t1/2】ジヒドロコデイン4~5hr (1) クロルフェニラミン28hr (β相) (1)

【Vd/F】ジヒドロコデイン200L/man (1)

【透析性】データはないが、クロルフェニラミンは除去されるとの報告あり (1)

【TDMのポイント】中毒濃度：ジヒドロコデイン1μg/mL (1)

【更新日】20240815

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。